

こんなに変わった嵐山町

	1965年(昭和40年)	2016年(平成28年)
面積	30.02平方km	29.92平方km
人口	9,483人	18,341人
世帯数	1,906世帯	6,968世帯
高齢者割合(65歳以上)	7.8%	29.5%
一般会計歳出決算額	1億261万9千円	64億3,866万9千円
事業所数(商業)	147事業所	122事業所
事業所数(工業)	30事業所	57事業所
農家総数	1,169戸	485戸
小学校数及び児童数	3校 1,207人	3校 794人
中学校数及び生徒数	2校 710人	3校 572人
普通車保有台数	1,022台	7,753台
軽自動車保有台数	116台	5,511台
第1次産業就業者数	2,505人	294人
第2次産業就業者数	1,245人	2,895人
第3次産業就業者数	1,248人	5,422人

資料:国勢調査及び埼玉県統計年鑑より

ポイント①

人口と世帯

人口は約2倍、世帯数は、何と3.6倍になりました。

ポイント②

少子高齢化

高齢化率は約3.8倍、児童数は約3割減少しました。

ポイント③

産業

工場は約2倍になりましたが、商店は約2割減少しました。第3次産業の就労者が約4倍になりました。

ポイント④

暮らし

車の保有台数が約12倍になりました。嵐山町の一般会計は約62倍になりました。

町制施行50周年記念号

これまでの嵐山町と新しい50年に向けて

ごあいさつ

昭和42年4月15日、戦後の高度成長の真っ只中に、菅谷村は「嵐山町」として町制を施行し、新たな船出をしました。本年、嵐山町は町制施行50周年を迎えました。その記念とした事業を行い、また行って頂き、様々な形で町制施行を祝っています。10月22日には、多くの町民の方々や上田埼玉県知事を始め、国・県等関係団体の方々のご臨席を賜り、悪天候にも関わらず式典を挙行することができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。



改めて嵐山町の50年を振り返ってみますと、決して順風満帆ではありませんでした。嵐山町を取り巻く社会情勢はめまぐるしく変化を重ね、高度経済成長とその後オイルショック、バブル景気とその崩壊などを経験してきました。今は亡き初代町長の関根茂章氏、先代町長の関根昭二氏を始め、議会議員の皆様、各種行政委員、団体の皆様の「嵐山町をより良いまちとして発展させていく」という思いとともに嵐山町は歩んできました。今日の嵐山町は、このような先達の献身的な努力の賜物であります。衷心から感謝と敬意を申し上げます。

私は常々、町制施行50年を迎えるにあたり、次の50年をどうするのか考える契機としてもらいたいと職員に話をしています。新たな50年をどう迎えるのか。今後、これまで日本が経験したことのない、人口減少、少子高齢社会が我々を待ち構えています。その荒波に向かって、関係各位の皆様の英知を結集し、どのような嵐山町を形作っていったらいいのか。「至誠にして動かざるものは、未だこれ有らざるなり」という吉田松陰先生の言葉があります。これからも「町民福祉の向上」を心魂に据えてまちづくりを行っていきます。町民の方々の始め、多くの関係機関・関係団体のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

嵐山町長 岩澤 勝



花見台工業団地完成

オオムラサキの森活動センター完成



武蔵嵐山駅東西連絡通路完成

町制施行20周年記念式典



第1回嵐山まつり開催



町制施行10周年記念式典

嵐山中央公民館完成(現ふれあい交流センター駐車場)



「菅谷館跡」国指定史跡に登録

旧嵐山町役場 現ふれあい交流センター



駅前通商店街(昭和40年代)

